

予 算 要 求 資 料

令和8年度9月補正予算

支出科目 款：農林水産業費 項：畜産業費 目：畜産研究費

事業名 飛騨牛産肉能力検定事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 畜産研究所 電話番号：0577-68-2226

E-mail：c24509@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 1,831 千円 (現計予算額： 41,217 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	41,217	0	0	0	41,217	0	0	0	0
補 正 要求額	1,831	0	0	0	1,831	0	0	0	0
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

・「ぎふ農業活性化基本計画(仮称・令和8年3月策定予定)」の基本方針2「潜在力を活用した生産強化の1) 農畜産物の供給力強化」における「畜産物の生産性向上」及び基本方針3「新たな流通ルートの開拓、販路拡大の1) 品目に応じた新たな流通ルートの開拓」における「食肉生産の強化」を本事業の施策として位置づけ。

・特長ある飛騨牛の生産性やブランド力を強化するためには優良種雄牛の造成が必須である。種雄牛の選抜には遺伝的能力を評価する必要がある、このため種雄牛産肉能力直接検定及び後代検定を実施する。

(2) 事業内容

- ・直接検定・・・1年間に種雄牛候補牛10頭を適正に育成管理し、増体量、飼料摂取量、飼料効率及び外貌諸形質を調査して、候補牛の発育能力、飼料利用性を評価する。
- ・後代検定・・・種雄牛候補牛の後代(産子)を肥育管理し、増体量、飼料摂取量、飼料効率及び枝肉成績を調査して、候補牛の産肉能力を間接的に評価する。

(3) 県負担・補助率の考え方

飛騨牛産肉能力開発事業は、県内では畜産研究所のみが行う事業であり、優秀な種雄牛を育てるためには交配を繰り返すなど長い年月を要し、肥育農家の飛騨牛ブランドへの期待は高いことから、県事業として行うことは妥当性がある。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
役務費	△ 226	牛販売手数料等
備品購入費	2,057	試験牛の購入
合計	1,831	

決定額の考え方

--

事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

「飛騨牛」のブランド力強化と安定生産を行うため、継続的な高能力種雄牛の造成を中心に飛騨牛改良を行う。

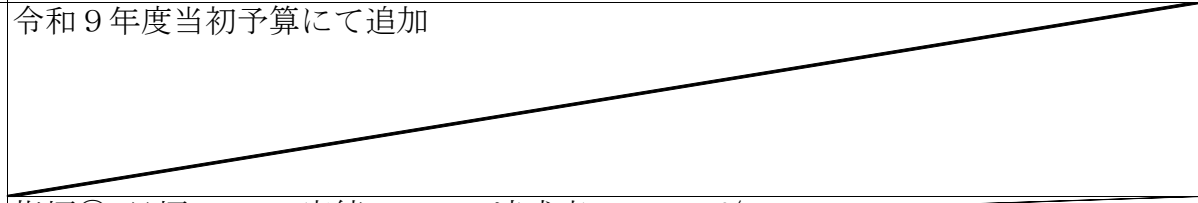
（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R)	達成率
① 直接検定 (検定牛頭数)		10頭	10頭	10頭	10頭	100%
② 後代検定 (検定セット数)		3セット	3セット	3セット	3セット	100%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和5年度	取組内容 事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等） ・枝肉研究会を開催（※コロナ禍で定員を制限） - R5. 11 勇福平 枝肉研究会開催 38名参加 - R6. 1 元景虎 枝肉研究会開催 39名参加 - R6. 3 清光平 枝肉研究会開催 28名参加 ・後代検定3セットの開始：雪月桜、正光春、美津茂清 ・先行交配3セットの実施：白峰山、孝清利、春翔福 成果 ・令和5年度に種雄牛3頭（「勇福平」「元景虎」「清光平」）について枝肉成績が判明した。3頭ともに造成方針にあった良好な成績が得られたことから、12頭の基幹種雄牛に入れることができた。 ・令和6年度中には次の世代の種雄牛候補である「桜吹輝」「義景竜」及び「清光勝」の枝肉成績が判明する予定であり、飛騨牛ブランドをけん引する次世代の種雄牛の造成が期待される。
-------	---

令和6年度	取組内容 事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等） ・ 枝肉研究会を開催 - R6. 10 桜吹輝 枝肉研究会開催 34名参加 - R7. 1 義景竜 枝肉研究会開催 74名参加 - R7. 3 清光勝 枝肉研究会開催 36名参加 ・ 後代検定3セットの開始：白峰山、孝清利、春翔福 ・ 先行交配3セットの実施：茂美津龍、孝福将、第6 豊萩 成果 ・ 令和6年度に種雄牛3頭（「桜吹輝」「義景竜」「清光勝」）について枝肉成績が判明した。内2頭については造成方針に合った良好な成績が得られたことから、12頭の基幹種雄牛に入れることができた。 ・ 令和7年度中には次の世代の種雄牛候補である「雪月桜」「正光春」及び「美津茂清」の枝肉成績が判明する予定であり、飛騨牛ブランドをけん引する次世代の種雄牛の造成が期待される。
令和7年度	指標① 目標：10 実績： 10達成率：100 % 令和9年度当初予算にて追加  指標① 目標： _____ 実績： _____ 達成率： _____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 2	関係者一体となり種雄牛を造成していることから、引き続き県が責任を持って種雄牛造成を担うと共に、「飛驒牛」の特徴の改良が期待できる次世代の種雄牛造成が望まれている。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	これまでに「安福」の後継種雄牛として「花清光」及び「広茂清」などの高能力種雄牛が順調に造成できた。また、現在「花清光」及び「孝隆平」を1代祖に持つ産子が県内子牛市場に多数上場されている。その効果もあり、岐阜県の枝肉価格は、新型コロナウイルス発生により低下したものの、インバウンド効果もあって回復の兆しが認められています。全国的に物価高による消費の落ち込みが激しい中、飛驒牛ブランドで取り引きされる枝肉については、全国平均より高い価格で推移している状況である。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 1	畜産研究所のみで産肉能力検定を実施するのではなく、県内の繁殖・肥育農家や、市村及び全農・JA等関係各機関の協力も得ながら産肉能力検定を実施している。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 検定牛の(生産者からの)買取り価格は子牛の市場価格に連動しており、随時見直しを行い設定してきている。この産肉能力検定事業を円滑に実施していくためにも、市場価格に連動した適切な買取り価格の設定が必要である。
--

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 県内和牛繁殖農家からは「飛驒牛」の特徴を維持し、また改良が期待出来る種雄牛造成の要望があると共に、安福系雌牛に交配可能な次世代の種雄牛の計画的な造成が期待されている。引き続き畜産振興課が担当する「飛驒牛改良推進事業」と連携しながら、種雄牛造成方針に基づいた種雄牛造成を維持・推進する。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	